

## 海中景観に優れ 25位の透明度

鴨ヶ磯から菜種島にかけての9.8kmの海域は、特に海中景観が優れ、透明度も25位と高いことから海中公園地区に指定されている。学術的にも貴重な地域だ。

鴨ヶ磯を出ると、すぐに急な階段が続き、このコースで一番のハードワークとなる。しかし、ここを上り切って平面に三角むすび形の菜種島が見えてきたら城原（しらわら）海岸はもうすぐだ。

菜種島には、その名の通り菜種（菜の花）が自生しているそうだ。

城原海岸はこのコース最後のポイント。広い砂浜と岩礁が一体となった美しいところで、県道から

近いこともあって、これからのシーズンは海水浴を楽しむ人も多い。ここから県道までは5分ほどで、県道に出てから少し東に行くと、つい最近完成したばかりの城原駐車場に着く。

駐車場からコース終点の田後港へは15分ほど。県道から左手に分かれる細い方の道をどんどん下って行けばよい。港に出たところがバス停。岩美駅行きのバスが1時間おきくらいに出ている。

なお、少し離れるが、浦富海岸の東端、牧谷にある山陰海岸自然科学館では、昭和63年に映像ホールが完成し、9台の映写機を使ったマルチスライドで、鳥取砂丘や浦富海岸の自然を紹介しているので、足を伸ばしてみるとよいだろう。

▼ 菜種島(遊歩道から)



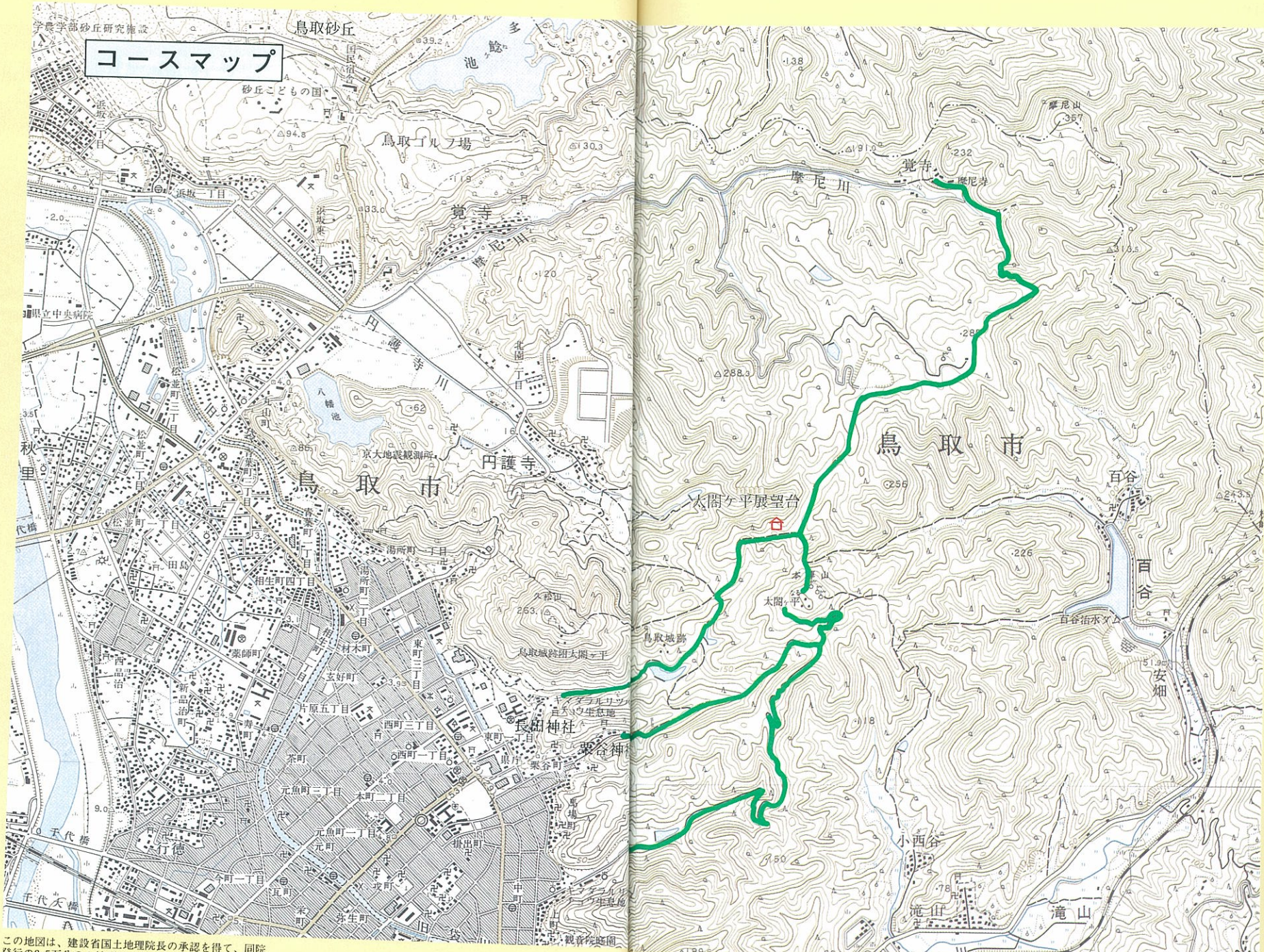
## 本陣山・摩尼寺コース



鳥取市の近郊に位置する本陣山から摩尼寺に至るコースを紹介しましょう。

鳥取市内から本陣山に向かうルートは、久松山を経由するもの、樗谿（おおちだに）神社から中国自然歩道を上るものなどがありますが、ここでは登山口が分かりやすく、比較的楽に歩ける長田神社からのコースを秋に歩いてみました。

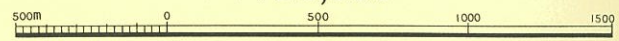




コースマップ

この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の2.5万分の1地形図を複製したものである。  
(承認番号) 平3中複、第91号

1:25,000



## モミなどの樹林 森林浴に最適

「久松山ろく史跡みて歩き」の標識に従って県庁裏の長田神社の大鳥居をくぐり、神社の左側を巻いて水道谷に沿って進みます。堰堤(えんてい)にぶつかったところに「自然休養林」の大きな看板があり、ここから登山道となります。辺りは、鳥取県では数少ないモミの木林です。さらにその奥からは、昼なお暗い森閑とした巨大な杉木立の山道が続き、道端のところどころにヤブランの青紫色の花が見られます。

やがて杉林を抜けた辺りで左山手に向かって曲がると、今までとは違って変わったシイ、カシ、タブ、ヤブツバキなどを中心とした見事な常緑照葉樹林の世界に入っ

て行きます。今流行の森林浴で有名になった「フィトンチッド」なるものも、このような生態的に安定した自然林に多いのではないのでしょうか。

また、久松山一帯は天然記念物のキマダラルリツバメの生息地です。

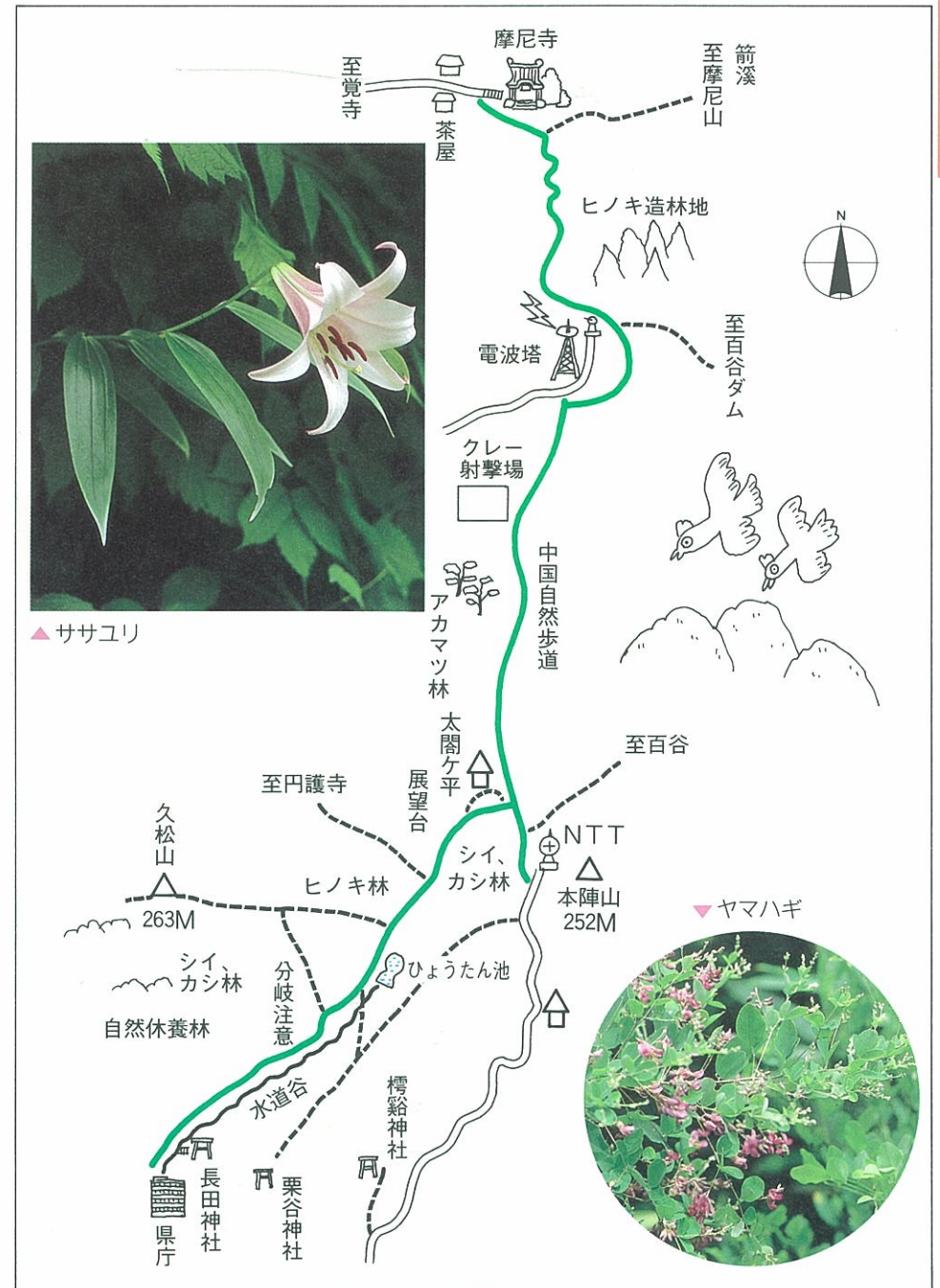
丸太階段を少し上ったところに本陣山コースへの分岐点があり、直進すると久松山へ行ってしまいますので要注意。分岐点を右折し、水道谷の方へ上ると、やがて「ひょうたん池」に出ます。この池は、その名の通り、ヒョウタンの形をしており、池畔はヨシが茂り、水面の一部はヒシが覆っています。その昔、鳥取城の飲用水などに使う目的で築城の際に造られたものといわれ、今でも当時の古い取水口が見えます。このことから、この沢を水道谷と呼ぶようです。池の

▶ 本陣山からの眺望



### コースの標準所要時間

長田神社→40分→ひょうたん池→40分→本陣山山頂→30分→クレー射撃場→30分→ヒノキ造林地→20分→摩尼寺



ほとりで一服。長田神社からここまで1.6<sup>キロ</sup>です。

ひょうたん池付近からヒノキ林を抜けたところで、久松山から本陣山につながっている稜(りょう)線に出ます。ここまでくれば本陣山まであと1<sup>キロ</sup>。尾根道は明るく、キンミズヒキ、ヤマハギ、ヌスビトハギ、ガクビソウなど、夏から秋にかけて咲く野草がたくさん見られるでしょう。

円護寺への分岐点を過ぎ、シイ、カシ林は快適な道を上って行きます。右手前方に目指す本陣山が見えてきたと思ったら、間もなく左手に太閤ヶ平展望台が見えてきます。展望台には丸太造りの素晴らしい休憩舎があり、ここから裏久松山の肩越しに、千代川の河口、浜坂、賀露の港が望めます。

太閤ヶ平のすぐ上で道は中国自然歩道のルートに合流し、合流点から本陣山までは10分足らずなので上ってみましょう。本陣山は、太閤秀吉が鳥取城を攻略した際に本陣を置いたところで、今でも当時掘り巡らされたといわれる空濠(ごう)が残っています。山頂はN T T無線中継所などがあり、

スタジイ▶

舗装された管理用道路も通っていて自然観には乏しいが、眺望はとても素晴らしく、鳥取市内や賀露、湖山池、長尾鼻、摩尼山などが一望されます。タブの木の木陰にベンチが設けてあり、ここでゆっくり休憩するといいでしょ。

本陣山から摩尼寺へは、来た道を少し戻り、中国自然歩道のコースをたどります。赤い木肌が美しい赤松の林の中を平たんな尾根道が続き、赤松に交じってウリカエ



▲摩尼寺

デ、イタヤカエデ、ヤマモミジ、ナナカマドなど紅葉する木が多いので、紅葉狩りにいいコースです。

本陣山を出発して30分ほどすると、左手にクレー射撃場が見えます。ここで道が2つに分かれています。安全のため射撃場から離れている方の道を歩きましょう。

## ヤマハギ咲き 秋の気配漂う

少し行ったところで、赤と白に塗り分けられた電波塔が見えてきます。この一帯は広い草原となっていて、一面にヤマハギが咲き乱れ、ススキの穂も出始めて、もう秋の気配。道は電波塔の敷地を巻くような形で海上保安庁のデッキ航路アンテナの裏側を通り、シデ林の中を通り抜けて行きます。本陣山から約1時間で、4、5年前に

伐開された広大な面積のヒノキ造林地に出て、急に目の前が開けます。谷を隔てた向こうに摩尼山の山塊が見え、眼下に福部村の海士地区が、その先の日本海には海士島がしんきろうのように望まれます。

ここからは丸太階段のつづら折りの下り道が谷底に向かっていきます。下りきったところが箭溪(やだに)との分岐点。ここで中国自然歩道に別れを告げ、摩尼寺へ向かって下ります。5分も歩くと摩尼寺入り口の茶屋に到着します。摩尼寺は、承和年間(834~847)慈覚大師によって開山されたと伝えられる天台宗の寺院。因幡第一の霊場とされ、境内は直径が1<sup>メートル</sup>以上もある杉やタブの森となっています。

# 氷ノ山登山コース



氷ノ山 (1,510m)は、大山に次いで中国地方で二番目に高い山で、氷ノ山 後山那岐山国定公園の主峰です。

「母なる森」とも呼ばれるブナの自然林や高山植物などの豊かな植生、大山火山帯に属する火山性の地形など変化に富んでいて、たんなる登山コースとしてだけでなく、自然観察コースとしてすばらしいところです。

